

付 録

- 1 自己評価運営委員会規程
- 2 自己評価に関する覚え書き
- 3 第10期自己評価運営委員会委員構成
- 4 第10期自己評価実施計画
- 5 アンケート依頼文および回答用紙
 学科部署宛
 教職員宛
- 6 第10期自己評価運営委員会活動日誌

1. 自己評価運営委員会規程

○工学院大学自己評価運営委員会規程

平成5年6月14日

(目的)

第1条 この規程は、工学院大学学則第1条の2に規定する教育研究活動等の状況についての点検及び評価を行うことを目的として、工学院大学教授総会規程第7条及び工学院大学教授総会運営細則第3条の規定に基づき設置する自己評価運営委員会(以下、「運営委員会」という。)に関し必要な事項を定める。

(設置目的)

第2条 運営委員会は、本学の教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検・評価を行う。

(活動)

第3条 運営委員会は教授総会の諮問に応じ、次の各号に定める大学の教育研究活動等の状況について、調査に基づき点検・評価を行い、教授総会に報告する。

- (1) 教育理念及び目標
 - (2) 教育組織及び教育課程
 - (3) 研究組織及び研究体制
 - (4) 構成員の一般的環境及び社会との関係
 - (5) 管理運営体制及び財政
- 2 学長は、別に必要な事項について運営委員会に諮問することができる。
- 3 運営委員会は、前2項に定めるほか、独自に点検・評価項目を設定し、調査等を行うことができる。

(委員)

第4条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもつて構成する。

- (1) 機械工学科及び機械システム工学科から選任される教員 1名
 - (2) 応用化学科、環境エネルギー化学科から選任される教員 1名
 - (3) 電気システム工学科及び情報通信工学科から選任される教員 1名
 - (4) 建築学部から選任される教員 1名
 - (5) 情報学部から選任される教員 1名
 - (6) グローバルエンジニアリング学部から選任される教員 1名
 - (7) 基礎・教養教育部門から選任される教員 1名
 - (8) 学長が指名する教員 若干名
 - (9) 学長補佐(教学担当)又は副学長(教学担当) 1名
 - (10) 学長補佐(学生支援担当)又は副学長(学生支援担当) 1名
- 2 前項第1号から第8号までの委員の選任又は指名は、教授総会において承認を求めるものとする。

(任期)

第5条 前条第1項第9号以外の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項第1項第9号の委員は、その役職に在任中委員となる。

3 委員が任期途中で交代した場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第6条 運営委員会に委員長及び副委員長1名を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

3 委員長は、運営委員会の議長となり、その会務を総理する。

4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(定足数)

第7条 運営委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を行うことができない。

2 運営委員会の議事は出席委員の過半数により決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(専門委員)

第8条 専門の事項を調査するため必要があるときは、運営委員会に専門委員を置くことができる。

2 専門委員は運営委員会の議決に加わらない。

(委員会)

第9条 運営委員会に、特定分野又は個別事項に係る調査及び点検・評価を行うため、若干数の個別自己評価委員会(以下、「委員会」という。)を置くことができる。

2 各委員会は、それぞれ運営委員会の委員及び専門委員で組織する。

3 運営委員会は、委員会の構成についてあらかじめ教授総会の承認を求めなければならない。

4 各委員会の議事等については、本規程の第5条から第8条までを準用する。

[第5条][第8条]

5 運営委員会又は委員会は、学内に設置された各種委員会組織又は事務組織に調査を委嘱することができる。

(事務庶務)

第10条 運営委員会及び委員会の事務庶務は、学務部学務課が処理する。

(改廃)

第11条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て教授総会において行う。

付 則

この規程は、平成5年6月14日から施行する。

付 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

付 則

この規程は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

付 則

1 この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

2 第 1 条(目的)を新設し、以下条を繰り下げる。

3 組織改正に伴い、委員のうち教務部長及び学生部長を学長補佐(教学担当)又は副学長(教学担当)並びに学長補佐(学生支援担当)又は副学長(学生支援担当)に変更する。

4 規程の改廃の手続きに委員会の議を経ることを明示する。

5 庶務を事務に変更し、担当部署を学務部学務課とする。

2. 自己評価に関する覚え書き等

自己評価に関する覚え書き

平成5年6月14日

1. 自己評価の考え方

- (1). 自己評価は、大学設置基準に明文化されたから義務的、受動的に行うものではなく、大学への社会的な期待に対し大学の責任として当然行うべきものである。本学は既に教学分科会報告(1984.11.20)等で実質的な自己評価の経験があり、今回の自己評価規程等はこれを明確にするものである。
- (2). 自己評価は、大学にとって自発的、自律的、自覚的な運営と質的向上を図ることを目的とするもので、組織の向上及び活性化を通じて各個人の向上をも目指すものであり、決して個人を単位として評価することが目的ではない。言うまでもなく大学人としての自己規律と職業倫理とはおのずから求められるものである。
- (3). 自己評価は、各機関が本来の職務上行う評価とは別のものであり、自己評価機関の設置又は自己評価の実施は既存の機関の権限を制限するものではない。また、自己評価の結果に対する反論・批判等は自由に認められる。
- (4). 自己評価は、内外の検討や批判に耐え得る客観性をもち、かつ公平なものでなければならない。評価を巡って意見の対立や違いが明らかになったとしても、学園の将来への発展を願う真摯な討論が行われるならば、価値ある努力であり、また多様な意見の吟味により、より客観的な認識に近づける。
- (5). 教育研究の内容に関する自己評価は、学問の分野ごとの特殊性を考慮し、教員の学問・思想・信条・研究スタイルを尊重して慎重に進めるものとする。
- (6). 自己評価の結論・提言は直ちに実施することを義務づけるものではないが、当該機関等は(改善)実施の是非・時期等の方針を速やかに見解として示すことが求められる。

2. 自己評価の手順

- (1). 自己評価運営委員会は、自己評価を実施するに当たり、教授総会に対して自己評価実施計画を提出し、承認を受ける。自己評価実施計画には次の内容が含まれる。
 - ① 自己評価の課題内容と個別委員会の構成員案
 - ② 自己評価の進め方の概要
 - ③ 評価実施期間
- (2). 自己評価運営委員会及び個別委員会は、必要に応じ学内各機関に対して必要な資料の提示を求められることができる。ただし、取り扱いについて最終決裁は学長が行う。
- (3). 運営委員会は、毎年1回以上教授総会に対して報告を行う。
- (4). 評価実施期間が1年を越える場合は、少なくとも毎年1回中間報告を行う。
- (5). 個別委員会が作成する評価報告書は、運営委員会が(必要ならば運営委員会の参考意見を付記して)教授総会に提出する。
- (6). 自己評価の結論・提言の実施は、責任を持つ当該機関が所定の手続きを経て行う。
- (7). 報告書の外部への発表は(必要ならば)学長が行う。

3. 第10期自己評価運営委員会の委員構成

第10期の自己評価運営委員会の体制は下記のとおりである。

●系列選出委員(任期：2011年4月～2013年3月)

工学部	高信 英明	工学部機械システム工学科准教授	【副委員長】
	矢ヶ崎隆義	工学部環境エネルギー化学科教授	
	伊藤 稔	工学部電気システム工学科教授(2012年3月まで)	
	水野 修	工学部情報通信工学科教授 (2012年4月から)	
建築学部	中島 裕輔	建築学部まちづくり学科准教授	
情報学部	篠原 克幸	情報学部コンピュータ科学科教授	
GE学部	金丸 隆志	GE学部機械創造工学科准教授	
基礎・教養教育部門	蔵原 清人	基礎・教養教育部門教授	【委員長】

●学長指名委員

山本 崇史	工学部機械工学科准教授
南雲 紳史	工学部応用化学科教授

●職務上委員

教務部長	管村 昇	情報学部情報デザイン学科教授(2012年3月まで)
学長補佐(教学担当)	大木榮二郎	情報学部コンピュータ科学科教授(2012年4月から)
学生部長(2012年3月まで)、学長補佐(学生支援担当)(2012年4月から)		
	佐藤 光史	基礎・教養教育部門教授

●事務局

松本 利一	教務部事務部長(2012年3月まで)
長田 仁	学務部事務次長(2012年4月から)
小玉 陽子	学務部学務課長
岡本 信彦	教務部学務課員(2012年3月まで)
山口 拓央	学務部学務課職員(2012年4月から)

4. 第 10 期自己評価実施計画

2012 年 6 月 18 日

教授総会構成員 各位

自己評価運営委員会

委員長 蔵原清人

第 10 期 自己評価実施計画（案）

今期の自己評価運営委員会の発足は昨年 12 月に入ってなされたが、これまで 3 回の委員会を開催し、今期の自己評価実施計画を下記のように取りまとめましたので、よろしくご検討をお願いいたします。

1. これまでの活動について

昨年 12 月に行われた第 1 回委員会では、委員長、副委員長の選出の後、意見交換をした。今回は特に学長の諮問は用意されていないため、委員会としてテーマを選定することが必要である。また次の認証評価の受審が 2013 年度に予定されているが、それに関しては第 9 期の自己評価運営委員会で取り上げている上に、今回の自己評価は 2013 年 3 月に報告を予定しているので、時間的には間に合わないで直接それに関わるテーマを考えなくてよい。こうした確認の上でこれまでの自己評価報告のテーマを参照したが、本学の現在当面する課題として学生に対する教育を充実させる課題が重要であるという意見が多く出された。その後行われた二回の委員会でもこの点に委員の関心が集まった。

2. 第 10 期の課題について

本委員会としては、今期の課題を次のようにしたい。

「学生の元気を育てる大学」をめざす現状と課題
—学生の活動力・就職力・学業力を高めるために—

これまでの自己評価のテーマは大学としての取り組みの改善に関する問題であったが、教育の目的である学生に対して大学がどういう施策をとるかについてとりあげるべきである。学生のプロジェクト研究や新入生のオリエンテーション・キャンプの実施をはじめ、理科教室等のボランティア活動など、さまざまな形で学生の活動の支援が進められている。こうした活動を総括して、本学はどんな学生に育てるかそのために何が必要であるかを、授業などの直接の教育面だけでなく、学生生活をはじめとする学生支援の面からも現在の到達と今後の課題を明らかにすることが必要であろう。

このために次のような視点で問題を掘り下げていく予定である。

- 1 「学生の元気を育てる大学」の重要性とその観点
- 2 これまでの大学の取り組みはどうなっているか
- 3 学生の状況と学生のおかれている環境
- 4 大学としてなにができるか（提案）

おわりに 学生自身の取り組みとして期待すること（学生への呼びかけ）

この問題ではすでに多くの取り組みが学内で進められているところであり、それを明らかにして総合的な視点を整理する必要がある。このために調査を行うと共に、これまで行われている各種調査の結果の分析は重要である。また全学的なシンポジウムなどを行って取り組みの共有や共通理解の促進を図りたい。この点で皆様方のご協力をお願いしたい。また学生諸君からもぜひ積極的に意見を求めたいと考えている。なお、必要に応じて大学院自己評価運営委員会との協力ないし協同を進めたい。

3. 自己評価の体制

●系列選出委員(任期：2011年4月～2013年3月)

工学部	高信 英明	工学部機械システム工学科准教授 【副委員長】
	矢ヶ崎隆義	工学部環境エネルギー化学科教授
	伊藤 稔	工学部電気システム工学科教授 (2012年3月まで)
	水野 修	工学部情報通信工学科教授 (2012年4月から)
建築学部	中島 裕輔	建築学部まちづくり学科准教授
情報学部	篠原 克幸	情報学部コンピュータ科学科教授
GE学部	金丸 隆志	GE学部機械創造工学科准教授
基礎・教養教育部門	蔵原 清人	基礎・教養教育部門教授 【委員長】

●学長指名委員	山本 崇史	工学部機械工学科准教授
	南雲 紳史	工学部応用化学科教授

●職務上委員

教務部長	管村 昇	情報学部情報デザイン学科教授 (2012年3月まで)
学長補佐(教学担当)	大木榮二郎	情報学部コンピュータ科学科教授 (2012年4月から)
学生部長(2012年3月まで)、学長補佐(学生支援担当)(2012年4月から)	佐藤 光史	基礎・教養教育部門教授

4. スケジュール

以上の課題について、本年8月ごろまでに実態調査を行い、9月以降報告書のとりまとめに向けた検討を行う。この間、必要により学内の意見を聴取する。報告書は、2013年3月までにまとめる予定である。

以上

5. <学科、部署対象>アンケート 依頼文

2012年11月29日

各科主任教授 各位

各種委員会 委員長 各位

殿

第10期 自己評価運営委員会
委員長 蔵原 清人

自己評価運営委員会アンケートについて〈お願い〉

第10期自己評価の課題として、「学生の元気を育てる大学』をめざす現状と課題 ―学生の活動力・就職力・学業力を高めるために―」について行うことが教授総会で承認されました。つきましては、そのための準備として現状を把握するためのアンケートを行いますので、ご協力をお願いいたします。アンケートには、出来るだけ部署、機関、委員会等の代表者がお答えください。個人の意見が含まれていて結構です。

なお、本アンケートは個々の部署等の取り組みの善し悪しを評価するものではなく、本学での体制がどうなっているかを明らかにすることを目的としています。

記

【アンケートの実施対象】 各学科（主任教授に依頼）
各種委員会（各委員長・基幹部署に依頼）
事務部門等

【提出期限】 12月17日（月）

【提出先】 学務部学務課（メールでの提出も可）

※本アンケートのファイルは、キューポートの共有ファイル上にあります。メールでの提出される方は下記を参照ください。

110大学教員フォルダ / 30申請・届出 / 140学務課 / アンケート / 2012第10期自己評価アンケート

以上

5. ＜学科、部署対象＞アンケート 回答用紙

自己評価運営委員会アンケート＜学部・学科対象＞

部署・学科名：_____

記入者氏名：_____

1. 貴部署・機関で、「学生の元気」を高めるということではどのようなことに留意されていますか。また、「学生の元気」にあたると考えられる事例をお書きください。

2. 貴部署・機関の活動を進めるとき「学生を元気にする」ためにどのようなことを意識していますか。（複数回答可）

- ☐① 学生とのコミュニケーションを十分とる
- ☐② 学生の反応をとらえる
- ☐③ 学生の生活や活動など実態やニーズを把握する
- ☐④ 学生の希望（要求）にもとづき、それが実現できる条件整備に努める
- ☐⑤ 「学生が元気」となるような活動課題の提示（提案）をする
- ☐⑥ 「学生が元気」となるための活動の進め方などを支援する
- ☐⑦ 学生は既に元気である
- ☐⑧ 特に意識していない
- ☐⑨ その他

<ご意見等を記入下さい。>

3. 貴部署・機関で、学生を元気にする活動を進めるために今後何が必要だと思いますか。また予定されていますか。

- ☐① 学生とのコミュニケーションを向上するための対策が必要
- ☐② 学生の実態把握のための対策が必要
- ☐③ 学生の希望把握のための対策が必要
- ☐④ 学生の反応を知るための対策が必要
- ☐⑤ 各部署・機関の必要に応じて活動を行うべきであり、学生の元気度を一律に求める必要はない
- ☐⑥ 特にない

<ご意見や具体例を記入下さい>

4. 他機関や他大学における、学生を元気にする取り組みの事例をご存じでしたらご記入ください。

5. その他、「学生の元気を育てる大学」について、貴部署・機関の課題に限らず今後の大学のあり方も含めてご意見がありましたらお聞かせください。

ご回答いただきありがとうございました。

●提出先：学務部学務課 E-mail takuo_yamaguchi@sc.kogakuin.ac.jp (学務課山口宛)

●提出期限：12月16日(月)

5. <教職員対象>アンケート 依頼文

2012 年 12 月 17 日

専任教職員 各位

第 10 期自己評価運営委員会
委員長 蔵原清人

教職員対象の自己評価運営委員会アンケートについて（お願い）

第 10 期自己評価運営委員会では、『学生を元気に育てる大学』をめざす現状と課題―学生の行動力・就職力・学業力を高める―を課題として取り組んでおります。この点に関して、教職員の皆様から、ご意見をいただきたくアンケートを実施いたします。お忙しいとは存じますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

なお、アンケートの回答内容は、自己評価運営委員会報告書の中で紹介することもありますので、ご承知おきください。

【アンケートの実施対象】 専任教職員（職員は学生と接する部署のみ）

【提出期限】 12月26日（水）

【提出先】 学務部学務課

※本アンケートのファイルは、キューポートの共有ファイル上にあります。メールで提出される方は下記を参照ください。

110大学教員フォルダ / 30申請・届出 /140学務課 /アンケート /【教職員対象】第10期自己評価アンケート

※同じフォルダ内にある「2012 第 10 期自己評価アンケート【キューポート掲載用】」は、アンケート内容が異なりますので、間違え無いようにご注意ください。

5. <教職員対象>アンケート 回答用紙

自己評価運営委員会アンケート<教職員対象>

アンケート記入者（差し支えなければご記入ください）

学科・部署名：_____

氏 名：_____

1. 本学の学生は今、「元気」でしょうか。学生の現状についてのお考えをお聞かせください。

☐①おおむね元気と言える。

☐②元気な学生もいるが、元気でない学生が目立つ。

☐③おおむね元気がない。

☐④個人としては可能性があるが、学内に元気を示す場が少ない。

☐⑤その他（ _____ ）

2. 勉学、クラブ・サークル、ボランティア、就職、その他の活動で、学生が元気な事例をご存じでしたらお書きください。

3. 「学生の元気」という点から気になる（元気でない）事例や問題点についてのお考えなどをお書きください。

4. 大学として、あるいは教職員側から、「学生の元気」という点からどのような取り組みや施策が必要だと考えられますか。

- ☐①部室やグラウンドなど施設、設備の充実
- ☐②大学の施設等の利用方法についての周知
- ☐③活動予算の充実（大学、後援会などからの補助を含む）
- ☐④元気な学生の事例の周知や活動の報告・発表場所の充実
- ☐⑤活動などに参加していない学生への参加の働きかけ
- ☐⑥学生に対して勉学だけでなく大学生活を多彩にするような呼びかけなど、教員側からの働きかけ
- ☐⑦その他（ ）

5. その他、この問題に関してお気づきの点やお考えをお書きください。

アンケートにご回答いただきありがとうございました。

- 提出先：学務部学務課 宛
E-mail takuo_yamaguchi@sc.kogakuin.ac.jp (学務課 山口宛)
●提出期限：12月26日(水)

6. 第10期自己評価運営委員会活動日誌

第1回 2012年1月12日（月）13：00～14：55

【 委員長及び副委員長選出、第10期の課題について、今後のスケジュールについて 】

第2回 2012年2月27日（月）15：05～16：45

【 第10期の検討課題について 】

第3回 2012年5月21日（月）17：00～18：30

【 委員交代について、規程の改正について 】

2012年6月18日（月） 教授総会

【「第10期自己評価実施計画(案)」を報告、承認】

第4回 2012年6月18日（月）17：30～19：00

【 「本学でどのような学生を育てたいか」について 】

第5回 2012年7月9日（月）17：05～19：15

【 就職および入試担当部署からの意見について 】

第6回 2012年9月10日（月）13：10～14：40

【 他大学の学生支援 GP の取り組みについて 】

第7回 2012年10月15日（月）16：45～18：15

【 アンケートの実施について、「学生の元気」について 】

第8回 2012年11月19日（月）17：05～18：35

【 アンケートの実施について、「学生の元気」について 】

第9回 2012年12月10日（月）17：25～18：40

【 アンケート集計結果について】

第10回 2013年1月29日（火）14：05～15：30

【 報告書の構成および役割分担について 】

第11回 2013年3月5日（火）16：10～17：50

【 報告書の原稿について 】

第12回 2013年3月15日（金）10：10～11：50

【 報告書の原稿について 】

2013年4月15日（月） 教授総会

【 報告書のとりまとめが遅れているので、今期委員の任期は3月末で修了するが、報告書のとりまとめを引き続き行いたい旨を報告し、了承された 】

第13回 2013年4月25日（木）17：00～18：30

【 報告書のまとめ 】

第14回 2013年5月16日（木）18：00～19：30

【 報告書の最終確認 】